

大学生を対象とした BSRI 項目を用いた性役割観の調査

井上 摩紀

I. はじめに

今回の調査を含む一連の研究は、言語を用いた質問紙による性役割観とジェンダー・アイデンティティ測定¹²の再検討と、身体表現を用いた測定の有効性を探ることを目的としている。研究全体の流れは①調査1：BSRI 項目の再分類による性役割観の調査②調査2：BSRI ジェンダー・アイデンティティ得点と再分類後のジェンダー・アイデンティティ得点の比較③実験1：身体表現を用いた性役割観とジェンダー・アイデンティティ測定¹²の有効性の検討という3つの調査・実験を中心としている。

ここでは、このうち①のBSRI 項目の再分類による性役割観の調査結果をまとめて報告する。さらに、BSRI 項目を利用して、幼児教育科女子学生の考える保育者に必要な資質を調査し、再分類の結果と対応させることで、保育の仕事に対する性役割分業意識の今日的な姿を明らかにしたい。

1. 本研究で使用する用語

ここで本研究に用いる用語を整理しておく。

ジェンダーに関わる用語の中で、心理学・社会学的に特に重要なものが「性役割 (gender role)」と「性同一性 (gender identity)」である。ジェンダーという言葉¹²を心理的性に対してはじめて使用したマネー (Money J.) は「ジェンダー・アイデンティティと性役割はコインの裏表である。自己が自身のアイデンティティを¹²知覚するのに対して、他者はそれをその役割表出から推測し得るのみであり、これは言語的・非言語的になされる¹²」とし、それゆえ「性役割はジェンダー・アイデンティティの公的な表現¹²」であると述べている。

性役割を研究することはすなわち性同一性を研究することである。発達心理

学の理論と社会学の役割理論に従って、この1つのことがらの2つの側面に含まれるさらに細かい概念を整理する。個人の内面の性同一性の中で、人生のごく初期の生物学的違いにもとづいた自分が男である女であるといった認知を特に「中核性同一性」(Kohlberg¹¹, Stoller R. J.¹⁴)と呼ぶ。一方、その人の外部にある社会から男女への、こうあるべきだという期待が「性役割期待」⁸である。個人は成長とともにその性役割期待を自己の内面にとりこんでいく。これがいわゆる性役割の社会化、ジェンダー化と呼ばれる段階である。そして、とりこんだ性役割期待を材料に個人は内面に男女に対する独自の価値評価を作り出す。これが「性役割観」(柏木、伊藤^{10,7})である。さらに、第2次性徴を経験し、自身の性的成熟を目の当たりにして、個人によっては自己の生物学的性に割り当てられた性役割期待に不満や戸惑いを感じる場合もある。このような心理的葛藤を乗り越え、個人が独自に確立した性役割観に照らし合わせて、自己をどのくらい男らしい・女らしいと考えているかという評価である「性役割同一性」(伊藤⁷)が確立される。伊藤の定義を引用すると、「自己の性役割観を社会的性役割期待と照合・吟味しながら、その性を担う自己を受容し、性役割についての一貫性と独自性を獲得していくこと」⁹である。性役割同一性は幼児期に確立された中核性同一性ととも性同一性の下位概念であるか、区別して用いることによって心理的な性であるジェンダーをより明確に理解できるだろう⁵。

本研究で調査した性役割観は、先に述べたように、社会の役割期待ではなく、個人が独自に形成した男女に対する価値評価である。この性役割観について、まず、今日の若者の特徴を明らかにした上で、幼児教育科に進学してくる女子学生が一般女子学生と比較してどのような特徴があるのかを考えていく。

2. BSRI について

本研究で使用した BSRI (Bem Sex Role Inventory) は1974年にベム (Bem S. L.)³が開発した性役割尺度である。心理的両性具有を測定するものさしであり、本来は個人の内面の男性性と女性性を測定する、つまりは性役割同一性を測定する尺度である。表1にそのすべての項目と分類を示す¹。「多種多様なレベルの項目が錯綜して盛り込まれている」(小倉¹³)といった問題点も指摘されているが、この尺度は作成当時、男性性と女性性を独立させて得点化したことと、中性項目を入れたことによって男性的でも女性的でもない(あるいはどちらでも

表 1. BSR (Bem Sex Role Inventory) の項目と分類

男性項目	女性項目	中性項目
リーダーとして行動する	愛情豊かな	順応性のある
積極的な	明るい	うぬぼれの強い
野心的な	子どもっぽい	良心的な
分析的な	あわれみ深い	月並みな
自己主張ができる	ことば使いのていねいな	親しみのある
スポーツ好きな	人をなぐさめる	幸せな
競争心のある	女性的な	援助を惜しまない
自分の信念を曲げない	おだてにのりやすい	無能な
支配的な	おとなしい	嫉妬深い
力強い	人のよい	人に好かれる
指導力のある	子ども好きな	気分屋の
独立心のある	忠実な	信頼のおける
個人主義的な	人の気持ちに敏感な	無口な
決断が速い	はにかみやの	誠実な
男性的な	話し方のおだやかな	まじめな
自分を頼れる	同情心強い	機転のきく
自信のある	やさしい	おおげさな
個性の強い	理解のある	正直な
はっきりとした態度がとれる	あたたかい	行動の予測がつかない
冒険好きな	人に従う	計画性のない

(青野¹訳を引用)

ある) 性質があることを認めた点で従来の尺度とは異なっていた。

この BSRI 自体の検証は他稿で論ずとして、本研究では前述の 2 つの利点にくわえ、その項目選定が当時のステレオタイプの収集によって成された点に着目し、その項目と分類を使用しての性役割観調査を行う。ステレオタイプの内容は「文化や時代の差を越えて、かなり一貫性がある」と一般的に言われている。内外の研究でもアメリカのステレオタイプ (Heilbrun 1981)⁴ と日本のステレオタイプ (伊藤 1978)⁶ は似通っていた。東は特にプロヴァーマンらの研究について「大多数の人が持っている性役割に関する基本的態度には、いかなる変化も生じていないことを教えてくれた」² と述べている。本研究でも BSRI の男・女性項目と分類は普遍的な性役割期待のステレオタイプとして扱うこととする。そして、本研究では BSRI が 60 項目の中から主成分分析を用いて 3 成分を抽出し、各成分で抽出された項目と BSRI の分類との比較に重点をおいて考察を進めていく。

II. 目的と方法

BSRI の項目を用いて、性役割観に関わる以下の 3 つの調査を行った。

調査 1 今日の若者の性役割観調査

1. 目的

今日の若者が認識する性役割観の特徴がどのようなものかを BSRI の分類と再分類を比較することで明らかにする。

2. 調査方法

京都・大阪の大学の男女学生527名(男子155名・女子372名)を対象とする。BSRI の男性・中性・女性項目に分類されている各20項目、計60項目をランダムに並べた質問紙を配り、それぞれの項目を「男性的」・「どちらでもない」・「女性的」の3つに分類させた。そのとき、「あなたが考える分類で回答するように」と教示した。BSRI の分類と比較するため主成分分析法を用い3成分を抽出し、バリマックス法により回転を施した。

調査 2 幼児教育科女子学生の性役割観調査

1. 目的

幼児教育科女子学生(以下、幼教女子)の性役割観の特徴を幼教女子以外の一般女子学生(以下、一般女子)と比較することで明らかにする。

2. 調査方法

調査 1 の対象者から幼教女子145名と一般女子157名を抜粋し、調査 1 と同様の手続きを行った。さらに、両群の評定平均値を比較するために t 検定を行った。

調査 3 幼児教育科女子学生の保育の仕事に対するジェンダー意識調査

1. 目的

幼教女子が考える保育者に必要な資質と性役割観をあわせて考えることで、彼女たちが持つ保育という仕事に対するジェンダー意識を明らかにする。

2. 調査方法

調査 2 と同じ幼教女子を対象とし、BSRI の60項目のうち、「あなたが保育者

に必要と考える資質」を選択させた。回答を集計し、選択率をパーセント表示した。その結果を調査2で抽出された3成分およびBSRIの分類と比較した。

III. 結 果

調査1

表2は主成分分析の結果、負荷量0.400以上の項目とBSRIの関係を示したものである。

3成分のうち、第1成分では「自己主張ができる」・「決断が速い」・「はっきりとした態度が取れる」・「競争心がある」など13項目が抽出された。これらの項目はすべてBSRIの男性項目であった。次に、第2成分では「やさしい」・「言葉使いのていねいな」・「人の気持ちに敏感な」・「人をなぐさめる」など11項目が抽出された。そのうち9項目がBSRIの女性項目であり、2項目が中性項目であった。第3成分は「信頼のおける」・「人のよい」・「無口な」・「忠実な」など6項目が抽出された。そのうち4項目がBSRIの中性項目であり、2項目が女性項目であった。

調査2

表3は幼教女子と一般女子の主成分分析結果である。

まず、第1成分を見る。幼教女子では「決断が速い」・「自己主張ができる」・「野心的な」・「スポーツ好きな」など計17項目が抽出された。負荷量がプラスを示した項目のうち13項目がBSRIの男性項目であり、あとの1つは中性項目であった。また、マイナスの3項目はすべて女性項目であった。一方、一般女子では「指導力のある」・「決断が速い」・「冒険好きな」・「自分を頼れる」など計14項目が抽出された。負荷量がプラスの項目のうち12項目がBSRIの男性項目であり、あとの1つは中性項目であった。マイナスの1項目は女性項目であった。

次に第2成分を見る。幼教女子では「信頼のおける」・「良心的な」・「正直な」・「忠実な」など計8項目が抽出された。負荷量がプラスの項目のうち4項目がBSRIの中性項目であり、2項目が女性項目、1項目が男性項目であった。また、マイナスの1項目は中性項目であった。一方、一般女子では「やさ

表 2. BSRI の項目を用いた調査対象者全員の性役割観の主成分分析結果

3 成分に設定して抽出 (負荷量 0.400 以上を抽出)

回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

第 1 成分		負荷量	第 2 成分		負荷量
自己主張ができる	M	0.617	やさしい	F	0.515
決断が速い	M	0.539	言葉使いのていねいな	F	0.53
はっきりとした態度が取れる	M	0.511	人の気持ちに敏感な	F	0.53
競争心がある	M	0.508	人をなぐさめる	F	0.527
自分の信念を曲げない	M	0.502	あたたかい	F	0.515
積極的な	M	0.478	愛情豊かな	F	0.497
指導力のある	M	0.463	子ども好きな	F	0.491
自分を頼れる	M	0.443	話し方のおだやかな	F	0.49
自信のある	M	0.443	親しみのある		0.452
冒険好きな	M	0.443	女性的な	F	0.445
独立心のある	M	0.442	良心的な		0.403
個性の強い	M	0.436			
支配的な	M	0.415			
計 13 項目			計 11 項目		
第 3 成分		負荷量			
信頼のおける		0.513			
人のよい	F	0.455			
無口な		0.445			
忠実な	F	0.437			
正直な		0.421			
誠実な		0.414			
計 6 項目					

※ M: BSRI の分類における男性項目 空欄: 中性項目 F: 女性項目

表3. BSRI の項目を用いた幼教女子と一般女子の性役割観の主成分分析結果
3成分に設定して抽出(負荷量0.400以上を抽出) 回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法

第1成分					
幼教女子			一般女子		
		負荷量			負荷量
決断が速い	M	0.574	指導力のある	M	0.607
自己主張ができる	M	0.565	決断が速い	M	0.549
野心的な	M	0.531	冒険好きな	M	0.518
スポーツ好きな	M	0.511	自分を頼れる	M	0.513
冒険好きな	M	0.494	力強い	M	0.498
競争心のある	M	0.472	信頼のおける		0.492
自分の信念を曲げない	M	0.469	自信のある	M	0.476
自信のある	M	0.461	自己主張ができる	M	0.448
独立心のある	M	0.46	リーダーとして行動する	M	0.446
自分を頼れる	M	0.458	自分の信念を曲げない	M	0.442
はっきりとした態度が取れる	M	0.453	男性的な	M	0.433
積極的な	M	0.447	支配的な	M	0.422
気分屋の		0.412	はっきりとした態度が取れる	M	0.408
個性の強い	M	0.4	話し方のおだやかな	F—	-0.423
言葉使いのていねいな	F—	-0.402			
話し方のおだやかな	F—	0.533			
おとなしい	F—	-0.617			
計17項目 (うち負荷量マイナス3項目)			計14項目 (うち負荷量マイナス1項目)		
第2成分					
幼教女子			一般女子		
		負荷量			負荷量
信頼の置ける		0.66	やさしい	F	0.528
良心的な		0.519	援助を惜しまない		0.518
正直な		0.504	人のよい	F	0.459
忠実な	F	0.448	明るい	F—	-0.518
誠実な		0.414			
理解のある	F	0.44			
リーダーとして行動する	M	0.401			
行動の予測がつかない	—	-0.459			
計8因子 (うち負荷量マイナス1項目)			計4項目 (うち負荷量マイナス1項目)		
第3成分					
幼教女子			一般女子		
		負荷量			負荷量
人をなぐさめる	F	0.557	話し方のおだやかな	F	0.542
愛情豊かな	F	0.491	人の気持ちに敏感な	F	0.459
同情心が強い	F	0.488	愛情豊かな	F	0.434
親しみのある		0.486	おだてにのりやすい	—	-0.415
あたたかい	F	0.436	無能な	F—	-0.45
子ども好きな	F	0.4			
計6項目			計5項目 (うち負荷量マイナス2項目)		

※ M: BSRI の分類における男性項目 空欄: 中性項目 F: 女性項目

しい」・「援助を惜しまない」・「人のよい」などの計4項目が抽出された。負荷量がプラスを示した項目のうち2項目がBSRIの女性項目、1項目が中性項目であった。また、マイナスの1項目は女性項目であった。

第3成分を見る。幼教女子では6項目が抽出され、5項目がBSRIの女性項目であり、1項目が中性項目であった。一般女子では5項目が抽出された。負荷量がプラスを示した項目のうち3項目がBSRIの女性項目、1項目が中性項目であった。マイナスの1項目は女性項目であった。

さらに両群の評定平均値を比較するためt検定を行った結果、2項目に5%水準で有意差が認められた。そのうち両群ともに成分として抽出されたのは「愛情豊かな」の項目だけであり、「愛情豊かな」は幼教女子の方が一般女子よりも女性的であると認識していた。

調査3

表4は選択率の高かった質問項目(70%以上)について調査2で抽出した3成

表4. BSRIの項目から選択した幼教女子が
保育者に必要と考える資質

項目	選択率(%)		BSRIの分類
愛情豊かな	97.89	3	F
子ども好きな	97.89	3	F
明るい	94.37	/	F
あたたかい	94.37	3	F
やさしい	90.55	/	F
親しみのある	90.14	3	
人に好かれる	85.21	/	
積極的な	83.8	1	M
信頼のおける	83.8	2	
人の気持ちに敏感な	80.99	/	F
理解のある	78.17	2	F
指導力のある	74.65	/	M

※ 選択率内 1：幼教女子で抽出された第1成分
2：幼教女子で抽出された第2成分
3：幼教女子で抽出された第3成分
/：抽出されなかった項目

※ BSRIの分類内 M：男性項目
空欄：中性項目
F：女性項目

分の区分と BSRI での分類の区分を示したものである。

最も選択率の高かった「愛情豊かな」・「子ども好きな」(ともに97.89%)は調査2の結果では第3成分であり、BSRI の分類では女性項目であった。次に高かった「明るい」(94.37%)は調査2の成分としては抽出されなかったが、BSRI の分類では女性項目であった。また、「あたたかい」(94.37%)は調査2の第3成分であり、BSRI の分類では女性項目であった。以下、「やさしい」(90.55%)・「親しみのある」(90.14%)・「人に好かれる」(85.21%)などが続く。表4にある12項目のうち、調査2で抽出されなかった項目が5つ、第3成分が4つ、第2成分が2つ、第1成分が1つであった。

IV. 考 察

調査1の結果から、抽出された第1成分を今日の若者の男性役割観、第2成分を女性役割観、第3成分を中性役割観とすることができる。

男性役割観には BSRI の男性項目のみが抽出され、女・中性役割観には女性項目と中性項目が混在して抽出されている。これは今日の若者が持つ性役割観のうち、男性に対するものは性役割期待を自己の内面にも取り込み、同じような価値評価を持っていることを示している。男性役割が強固で普遍的であると認識されている表れであろう。一方、女性役割観は中性、つまり男女どちらでもない要素との境界線が不明瞭であり、女性性への価値評価が男性性ほど強固にステレオタイプで縛られていないことを示している。

これには2つの理由が考えられる。1つは性役割期待は普遍的に存在するものの、社会の変化に伴って、それを自己の内面にとりこむ過程に変化が生じ、個人の内部で形成される性役割観、とくに女性役割観に変化が生じたことである。もう1つはもともと社会の女性役割期待が男性役割期待に比べて不明瞭であり、固定された概念形成がされていないことである。「女性役割よりも男性役割が普遍的で社会的に高い価値が認められ、男性の役割規範が強いため、男性の役割逸脱は女性よりも厳しい批判を受ける」(鈴木)¹⁶ というような状況も男性への性役割期待は女性に対するものに比べて強固であることを示しているといえる。

次に、調査2の結果について調査1の結果と合わせて考える。

幼教女子・一般女子ともに第1成分が男性役割観、第2成分が中性役割観、第3成分が女性役割観ということが出来る。

まず、2群とも男性役割観での結果は大変似ており、全体を対象とした調査1の結果と同じく、ほとんどがBSRIの男性項目で占められていることがわかる。これも社会の男性役割期待が強固であるため、そのまま個人の価値評価に取り込まれた表れであろう。しかし、女・中性役割観での結果は2群間でわずかながら異なっている。全体での結果と同様に、2群ともBSRIの女性項目と中性項目が混在しているのだが、幼教女子は女性役割観で女性項目が、中性役割観で中性項目が多いというように性役割期待のステレオタイプをなぞる結果であったのに対し、一般女子はどちらの性役割観も女性項目が多いという結果であった。一般女子は従来の女性役割期待のステレオタイプを男女どちらでもない中性役割観に変化させているのである。これは男女全体から見ても特徴的である。

この特徴に比べて、幼教女子は一般女子ほどには意識の変化がなく、女性の中では比較的、従来の性役割ステレオタイプに従った固定的な女性役割観を持ち続けているといえる。

次に、幼教女子の保育の仕事に対するジェンダー意識について調査3と調査2の結果とあわせて考察する。

幼教女子が保育者に必要と考える資質の選択率上位には、調査2において幼教女子の女性役割観で抽出された項目が多い。さらに、最も選択率が高い「愛情豊かな」は、調査2において一般女子と比較して、彼女たちが女性的であると有意に強く認識している項目である。つまり、幼教女子は保育の仕事には女性役割観にあてはまる性質、女性性が重要であると考えているといえる。特に、彼女たちが最も必要と考えている「愛情が豊か」という資質は、一般女子よりも強く女性性、保育の場では母性と言い表される性役割観に帰属するものと捉えられており、それゆえ、保育の仕事は男性には不向きと考えられていると思われる。「性別役割分業に賛成する率は男性のほうが高い」(鈴木¹⁷)つまり、女性の方が性別役割分業に否定的との指摘も保育の現場では当てはまりにくいのかもしれない。

とはいえ、女性役割観の項目に続いて、どこにも抽出されなかった項目も多い。BSRIでは女性項目に分類されていた項目が多数上位に並んでいることに

比べると、幼教女子は保育者の仕事に関して女性専有であるといった旧来のステレオタイプに縛られた性別役割分業意識とはわずかに変化したジェンダー意識を持っていると考えられる。これは、社会に浸透し始めた「男女平等志向」¹⁷が影響しているのだろう。

V. ま と め

BSRI の再分類を行った結果、男性役割観については、若者全体に共通して、昔ながらの「男らしさ」へのイメージと同様の「男とはこういうもの」といった性役割観を持ち続けていることがわかった。一方、女性役割観については、オリジナルの BSRI と比較して、女性項目は中性項目と相互に移動しており、両項目の境界は不明瞭で、男性役割観ほどには明確な性役割観が存在していないことが伺える。これは近年、女性の社会進出が進み、かつてのステレオタイプの女性役割観とは異なったパーソナリティを持つ女性が増え、そのことを社会が受け入れることによって「女らしさ」へのイメージが変化したためと推測される。

また、若者全体においても女・中性項目において抽出される数が男性項目と比較して明らかに少なく、BSRI がジェンダー・アイデンティティ測定に男・中・女性項目を同数並べて使用していることには問題があるといえる。さらに、同じ女子でも幼児教育科と一般では男性項目は共通しているものの女性項目では違いがあったというように、所属する社会によって項目に対する認識の違いがあることが明らかになった。BSRI のように固定された性役割にもとづく尺度はやはり問題がある。

今後の研究課題として、ジェンダー・アイデンティティを測定する時には、今回行った再分類のような性役割観を測定するための調査を同時に行い、個々の性役割観に対応した尺度作りが必要となるだろう。さらに、男・女性項目の明確さの違いは言語による測定法の限界を示しているといえる。時代の変化によって、再分類で抽出される男・女項目の数が異なるため、常に各項目を同じ重みで形成し続けることは困難であろう。ここに、言語を離れた測定法が求められる理由がある。身体を用いた測定の可能性を探る研究では、言語での測定では出来ない等価での男・女性性役割観の測定を目的としたい。

幼児教育科女子が一般女子に比べて女性項目でオリジナルの BSRI に近い分類をしているのは彼女たちが旧来の性役割分業意識を持ち続けていることを示唆している。また、保育者に必要な資質として多く自ら女性項目に分類したパーソナリティを挙げている点は、保育の仕事を女性の仕事と考えている表れであろう。

「(全般的には) 職業・社会・子どもの教育に関する平等意識は強いが、家事や育児における伝統的な男女分業を肯定する度合いが高い」(鈴木¹⁵)という社会の現状のもと、家事・育児が仕事内容になる保育の現場では平等意識と性別役割分業意識が複雑に絡み合ってくる。今後の男性進出が促進されるためには、受け入れる側の女性たちが、現在変化の兆しのある、自らの性役割観と保育の仕事に対するジェンダー意識をどのように変えていくのかが課題のひとつになるだろう。幼教女子の性役割観の変化は一般女子と比べて緩やかといえども認められた。保育者に最も必要と彼女たちが考えている「愛情豊か」や「子ども好き」といった資質が男・女性役割観から独立し、どちらでもないという中性性として女性たちに認められることが、男女が同じように保育の仕事に携われるひとつの手立てとなるのではないだろうか。

文献

- 1 青野篤子他、ジェンダーの心理学、ミネルヴァ書房、1999。
- 2 東清和、性差の社会心理 つくられる男女差、(p. 90)、大日本図書、1979。
- 3 Bem S. L., The measurement of psychological androgyny, *Journal of Counseling and Clinical Psychology*. 42, (pp. 155-162), 1974.
- 4 Heilbrun Jr. A. B., *Human sex-role behavior*, Pergamon Press, 1981.
- 5 井上摩紀、ジェンダーに関わる概念の整理、大谷大学短期大学部幼児教育科研究紀要、第3号 (pp. 90-98)、2001。
- 6 伊藤裕子、性役割の評価に関する研究、*教育心理学研究*、第26巻 第1号 (pp. 1-11)、1978。
- 7 伊藤裕子、*青年期における性役割観の形成*、風間書房、1997。
- 8 伊藤裕子、性役割と発達、柏木恵子他編、*発達心理学とフェミニズム*、(p. 158)、ミネルヴァ書房、1998。
- 9 伊藤裕子、ジェンダーと発達、伊藤裕子編、*ジェンダーの発達心理学*、(pp. 38-39)、ミネルヴァ書房、2000。
- 10 柏木恵子、現代青年の性役割の獲得、依田新他編、*現代青年の性意識*、(pp. 101-

- 139)、金子書房、1973。
- 11 コールバーグ L., 子供は性別役割をどのように認知発達させるか、マッコビィ E. E. 編、青木やよひ訳、性差 その起源と役割、(pp. 131-253)、家政教育者、1979。
- 12 マネー J・タッカー P., 朝日新一他訳、性の署名 問い直される男と女の意味、(pp. 17-19)、人文書院、1979。
- 13 小倉千加子、性別行動の発達、東清和他著、性差の発達心理、(p. 164、p. 175)、大日本図書、1982。
- 14 ストラー R. J., 桑畑勇吉訳、性と性別 男らしさ女らしさ、岩崎学術出版、1973。
- 15 鈴木淳子、経営と性別、齋藤勇他編、経営産業心理学パースペクティブ、(p. 138)、誠信書房、1994。
- 16 鈴木淳子、男性と女性に期待されるもの、宗方比佐子他編、女性が学ぶ社会心理学、(p. 143)、福村出版、1996。
- 17 鈴木淳子、男／女になる、小林裕他編、教科書社会心理学、(pp. 236-237)、北大路書房、2000。

最後に今回の調査・実験に被験者として協力して下さった学生の皆様ならびに施設利用等で便宜をはかって下さった本学職員の方々、特に、今回の研究の主軸である統計処理に関して多大なるご助力をいただいた本学中桐伸吾教授に謝意を表します。